



安全管理セミナーを実施して

北海道美唄市消防団

1 安全管理セミナーを開催した経緯

近年の大規模災害をはじめ、ゲリラ豪雨や特殊災害の発生が増加し、消防団員のマンパワーは災害に立ち向かうための大きな武器となり、今後更に重要な存在となっていくことが予想されます。

また、美唄市は北海道の中でも豪雪地帯であり、雪国特有の事故も多く発生しています。落雪による生き埋めや近年の大雪による建物倒壊も多数発生しており、更には一冬の積雪が一気に溶け出す時期には河川増水による水害が何度も発生するなど、土地柄ゆえの災害が発生します。これらの災害に出動した職団員は常に2次災害の危険が潜んでいます。そのような災害時の活動中の安全管理について、もっと知識を深めようという思いから開催に至りました。

2 安全管理セミナーを実施して

平成 25 年 4 月 7 日（日）に消防基金の佐々木

武夫氏を講師にお招きし、公務災害の発生状況や安全管理の基本概念、予防の方法などを詳しく講義していただきました。この日は消防団員・職員合わせて約 200 人が参加し、熱心に講師のお話に耳を傾けていました。

なかでも、セミナー冒頭と休憩後に繰り返した「指差し唱和」は団員全員が唱和することで一致団結し、団員相互にふだんからの安全管理への心がけの重要性について再認識させられました。

また、「ハインリッヒの法則」を丁寧に説明していただき、1回の重大事故が発生するまでに29回の軽い災害と300回のヒヤリハットが起こっていると解説があり、重大事故が起こるまでにはそれまでの現場活動や訓練中において、なにかしらの軽微な事故が起こる可能性を意味していることに気がつき、身が引き締まる思いをしました。

セミナーを受講した団員からは「なかなか聞くことのできない貴重な話を聞くことができ、参考



になった」、「公務災害の発生は訓練中と消火活動中に多く発生し、死亡事故の中では心疾患が多く、けが等の外傷よりも多いことに驚いた」、「経験の浅い若手団員への目配りをしつつ、お互いに声掛けをしていく」、「今後も現場活動では細心の注意を払いながら活動したい」などの声が寄せられました。



指差し唱和の様子

3 今後の取組について

昨年の「健康セミナー」に続き、今年は「安全管理セミナー」を開催することができ、ふだんの活動ではなかなかできない基本的な「活動の振り

返り」をすることができたのではないかと思います。「一步間違えれば…」というような「ヒヤリハット」を経験している団員も少なくないため、今回のセミナーは貴重な経験となったのではないのでしょうか。現場や訓練中での小さな事故や気づきは、職団員相互で情報共有し、災害が発生しないようにするにはどうすべきかを話し合うことも重要な安全管理の一つと考え、小さな事故を見逃さない体制づくりも考えていかなければなりません。今後は団員一人一人が今回のセミナーで得た知識や経験を基に自身はもちろん、他の団員のことに目も向け、団員相互が協力し合いながら公務災害を予防していけるよう心がけていければと考えております。

また、消防基金で共催していただけるセミナーに「S-KYT 研修（消防団危険予知訓練）」もあり、更なる安全管理の向上を目指し、来年度以降も力を入れて取り組んでまいります。

終わりに、今回の講師であります佐々木武夫様をはじめ、本セミナーを共催いただきました消防団員等公務災害補償等共済基金様にあらためて感謝いたします。

